

事例紹介

JICA事業活用とベトナム進出

Tamada Industries, Inc.



目次

1. 会社概要
2. 製品紹介
3. 現在のビジネスの状況(ベトナム)
4. ベトナム進出(現法設立)の思い
5. JICA事業活用とベトナム進出
6. 今後のビジネス展開
7. 最後に 途上国への進出を検討している皆様へ

玉田工業株式会社 会社概要

創業：1950年4月

社員数：260名（平成29年3月）

売上：75.3億（平成29年3月期）

本社：石川県金沢市無量寺町ハ61-1

製造拠点 関東、九州、ベトナム（子会社）

営業拠点 全国14拠点

主要製品：SF二重殻タンク

FSF防火水槽等

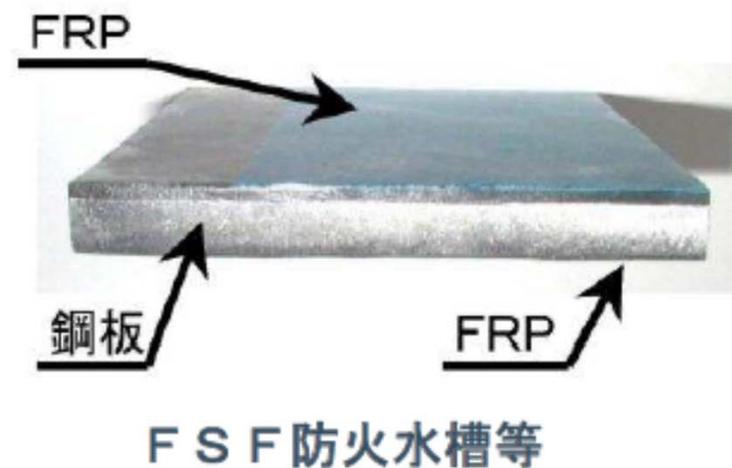
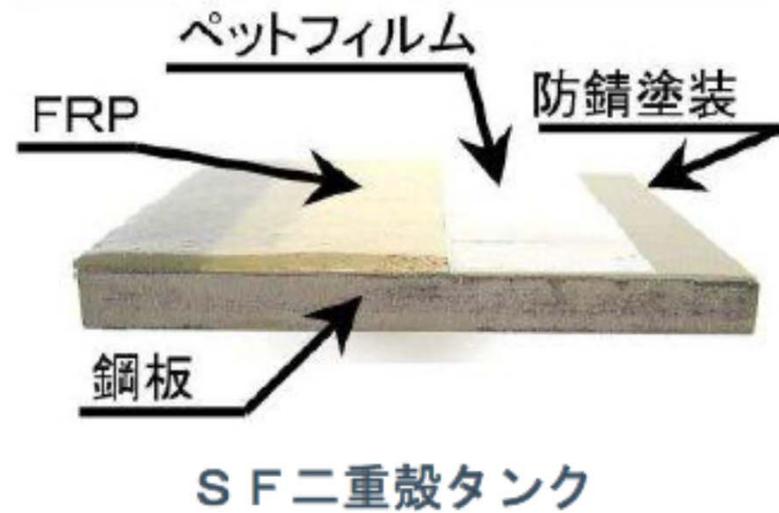
飲料水兼用耐震性貯水槽

地下タンク内部FRPライニング

■ 製品紹介



鉄とFRPのコア技術



製品紹介

S/F二重殻タンク
危険物貯油地下タンク



JICA事業

SSのタンクの70%のシェア

アクアインピット
飲料水兼用耐震性貯水槽



水道業界への新規参入

FSV防火水槽等



鋼製ではトップシェア

地下タンク内部FRPライニング



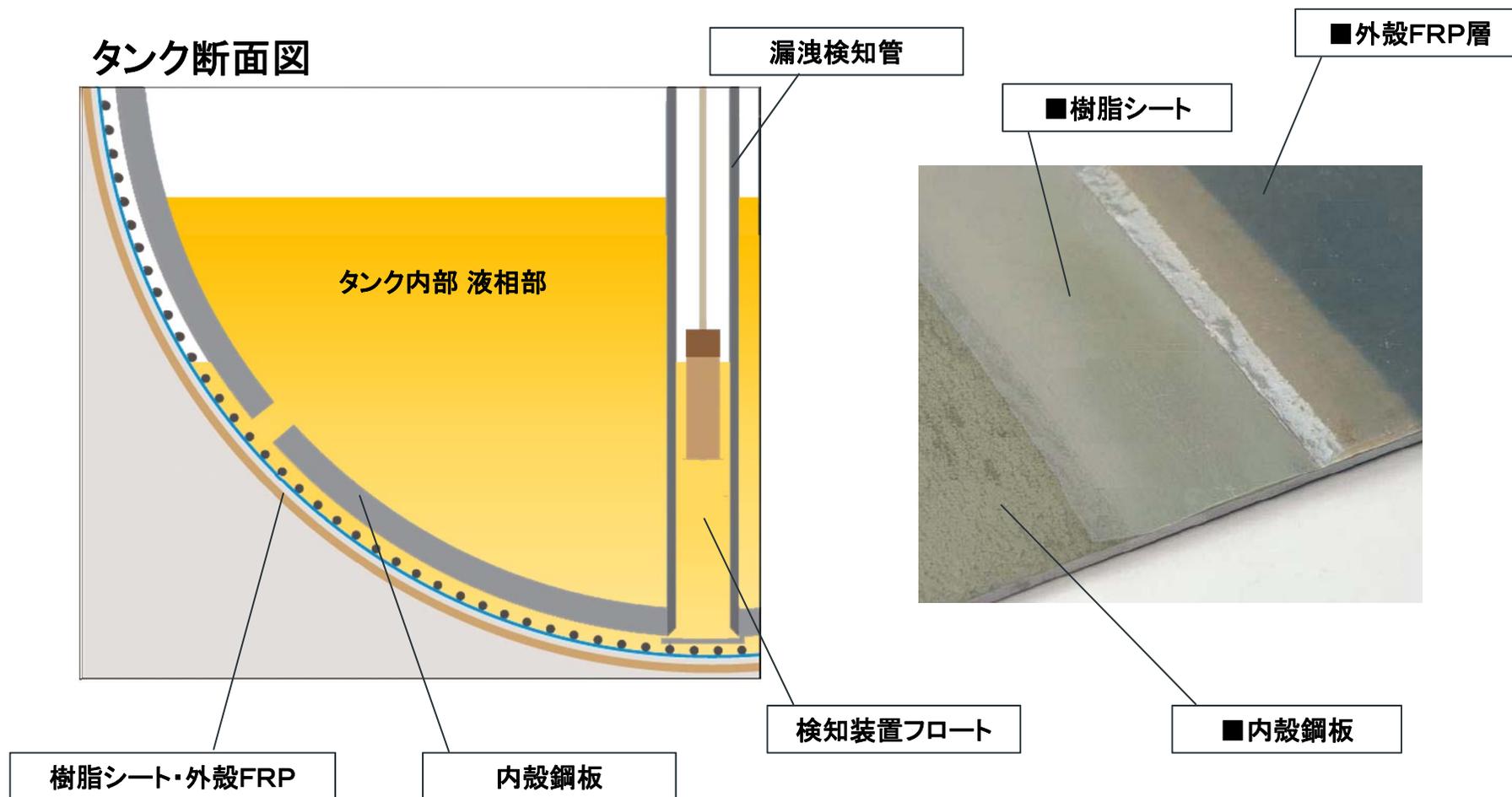
単独で25%のシェア
グループで50%以上のシェア

■ 製品紹介

SF二重殻タンク<スチール&FRP>

漏洩検知の仕組み

タンク断面図



■ 製品紹介 (途上国の開発への効果)

SF二重殻タンク



発展途上国が経済発展を遂げる過程で自動車や二輪車が急増が予測できる。

⇒交通インフラ、ひいてはガソリンスタンドの整備が必要

⇒ガソリンスタンドの貯蔵用タンクは、防災性能の低い一重殻タンクを使用

<開発課題>

①危険物の漏洩による引火事故

②土壌汚染・地下水汚染のリスク

効果：持続的可能な経済発展を遂げる事が出来る。

■ 現在のビジネスの状況(ベトナム)

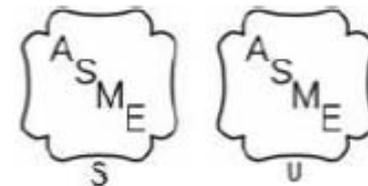
タマダベトナム

- ・日本人4名(営業1名ハノイ)
- ・ベトナム人68名

工場面積 4,956m²
敷地面積 23,226m²



タマダベトナム工場は九州工場(熊本)をモデルにしており将来の二重殻タンク需要に直ぐに対応可能な工場でもある。



■ 現在のビジネスの状況(ベトナム)

2015年度



- ・ハイフォン工場開設
- ・日本検査機関の工場認定
- ・ISO9001取得
- ・日本向け(玉田工業製品・部品)出荷
- ・現地日系企業向けSF二重殻タンク出荷



ハノイ消防の特認取得

- ・現地日系企業向け槽類出荷
- ・日本向け製罐類製作

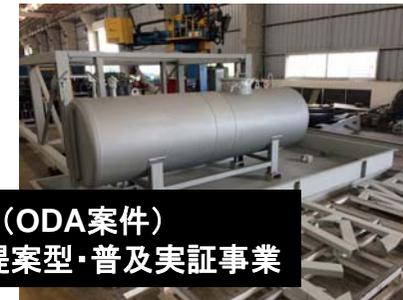
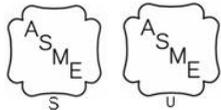
2016年度

- ・約8割が玉田工業(日本)向け
- ・1割が日本向け製罐
- ・1割弱がベトナム市場



2017年度

- ・日系ガソリンスタンド向けSF二重殻タンク出荷
- ・ASME取得
- ・ODA案件製罐



フェ向け焼却炉(ODA案件)
某企業の民間提案型・普及実証事業

■ ベトナム進出(現法設立)の思い

海外市場参入のきっかけ

SF二重殻タンクの日本国内マーケットは極端に縮小されつつあり、このままでは危険だと感じて東南アジア進出の思いを強く持っていた。

進出先をベトナムとした理由

- ・ベトナムはアジアの中における先進的開発拠点であり、**日本企業の進出も多く、投資回収の可能性が高い。**
- ・ベトナム国内における今後のバイク、車の需要増加に伴い、ガソリンスタンドのインフラ整備の必要性が発生し、**地下貯蔵タンクの増加が見込まれる。**
- ・ベトナム国 100%出資の**ペトロリメックス社との間で石油備蓄関連プラントの設計協力等の連携関係を持っており、人脈を保有している。**
- ・当社工場にベトナム人研修生を受け入れており、**ベトナム人の人材雇用・教育研修の実施等の経験がある。**

■ ベトナム進出（現法設立）の思い

ベトナム進出の3つの目的

○国際化 海外展開することで将来のマーケットを得る

- ・東南アジア等のガソリンスタンド需要の取り込み
- ・生産拠点ベトナムをベースに事業の展開を図る。

○ものづくりの再構築

- ・タンク以外の製罐類と称する分野でのものづくりに再挑戦をすることにより、多様な構造物の製造ノウハウを自社にて育成する。
- ・海外に出る日本企業の設備投資面での製罐類の製造をターゲットとする。

○玉田工業製品・部品の海外製造

- ・ベトナムにて製造することでコスト削減効果を生み、国内での競争力をあげる。

■ベトナム進出(現法設立)の思い <現況>

ベトナム進出の目的3点について

○ものづくりの再構築

あらゆる分野でのものづくりの挑戦・実績作りが出来てきている。
(工場開設時に製罐業を営んでいる会社が資本参入)・・・海外事業部を東京に集約

○玉田工業製品・部品の海外製造

材料費の問題(輸入品が殆ど)はあるものの、多少のコスト削減効果はある。
現段階ではベトナム工場の主力

○国際化 海外展開することで将来のマーケットを得る

日系企業のSS計画により、二重殻タンクの展開に関しては
序々に進んで来ている。外資系は将来の規制強化や環境汚染時の罰則強化を
を見越して漏洩対策を取っている。(工場に入れる危険物タンクも同様になる。)

地下タンク二重殻化の法制化に関しては未だ先と思われるが中国の例から全ての
埋設タンクを二重殻にする様な法律が出来る可能性は高い(遅くとも2024年頃)

■ JICA事業活用とベトナム進出

2012年度

- ・ハノイに駐在所を設立
(ローカル企業での生産委託事業及び現法設立のFSの為)
- ・「案件化調査事業」公募説明会出席
・・・コンサルタントより紹介を受ける。
- ・「案件化調査事業」に採択されJICA支援の下実施
現法・工場設立の意思を固める。

<波及効果>

- ・社員のスキルアップ
海外における飛込み訪問等
協力者探し(現地コンサル)
工場設立調査
- ・優秀な通訳との出会い
- ・JETROスキームの支援紹介

2013年度 2014年度

- ・JICAスキーム(ODA)の民間提案型・普及実証事業開始
- ・JETRO事業によって工場立上の専門家を派遣頂く
- ・2013年12月 現地法人タマダベトナムを設立(6月土地仮契約)
- ・ハイフォン(ディンブー工業団地)に工場建設開始
※国際協力銀行・主要取引銀行の融資
・・・取引銀行からの紹介
- ・中小機構 パッケージ型海外展開支援事業
- ・(2015年度)石川県ニッチトップ企業海外展開支援事業

<波及効果>

- ・官とのつながり
- ・玉田工業(株)のPR
日系企業との関係
漏洩防止対策のPR
- ・海外人材の獲得
- ・その他公的機関の支援案内

■ JICA事業活用とベトナム進出(案件化調査)



延べ25箇所(29回)の面談を実施

■ JICA事業活用とベトナム進出(普及実証事業)



■ JICA事業活用とベトナム進出(メリットと効果)

本事業を通じて

1. ベトナムと言う国(風土・国民性)を知る。
2. 法律を知る。(事業分野・会社設立関連分野)
3. 事業範囲の政府機関とネットワーク構築
4. 海外人材の育成
5. SF二重殻タンクの認知度向上
6. 玉田工業・タマダベトナムのPR

その他、本事業を実施する事で他機関からの支援案内が届く様になり、結果JETRO、中小機構、石川県の海外支援や国際協力銀行の融資支援も頂く事になり、当社のベトナム進出が順調に進んだ。

全てはトップの強い思いとタイミングが現在迄の結果につながっている。

しかしながら、東南アジアにおける今後のあらたな戦略等、次なる手を打って行く必要があると考えている。

■ 今後のビジネス展開

海外特に東南アジア諸国への当社固有のソリューションビジネスの 発信
品目

1. SF二重殻タンク製造技術の普及促進・・・ベトナム他3カ国に技術供与
2. 地下タンク内面FRPライニング技術の普及促進・・・台湾に技術供与
3. SIRの普及促進(漏洩管理在庫管理のソフト事業)
・・・現在日本にて普及促進
4. 地下配管内面コーティング、ライニング技術の普及促進
・・・現在日本にて普及促進

ベトナムからの製品輸出、技術供与、事業共同立上、
ロイヤリティーによるFC事業等を行う

具体的対象国: インド、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア
カンボジア、ラオスその他周辺国

具体的方策: 専任者1名就任 事務所は最初は当社東京支店内
営業に必要なパンフレット、案内DVDその他の作成 海外出張による対象
企業の選別・アプローチ

■ 最後に 途上国への進出を検討している皆様へ

JICAの「案件化調査事業」や「民間提案型・普及実証事業」が無ければなかなか前には進まなかったと思います。

現在、中小企業向けの海外支援が多くありますが途上国の開発への効果等が含まれた本事業のインパクト(宣伝効果)はかなり大きいと思います。

- ・公募の段階で第三者による事業化に向けての実現性や将来性の審査がある。
- ・中小企業にとっては全社をあげての取組にもなるので中途半端にならない。
- ・段階的に受ける事が可能な支援(他の支援機関)を受けやすい。

途上国へ進出を検討している皆様にはJICAの事業を活用した後、他の支援事業も頂きながら海外進出する事をおすすめ致します。

本日ご出席の金融機関の皆様におかれましては現在海外進出を目指している取引企業へのJICA事業活用の働き掛けを御提案致します。



ご清聴ありがとうございました。

福島原発、汚染水貯留タンク
関東工場